

第1回「スポーツ社会学基礎“体力”養成フォーラム」報告

研究委員会では、「若手」研究者の研鑽を目的として「スポーツ社会学基礎“体力”養成フォーラム」が企画され、第1回目の活動が下記の要領で行われた。この会は原則的に「若手」研究者による報告（研究の充実のための意見交換が狙い）と各領域の第一線で活躍中の方による報告（多様な方法論を学ぶことが狙い）から構成されている。

日時 2009年8月1日(土) 14:00-17:00

会場 関西大学百周年記念館第一会議室(千里山キャンパス)

報告

- ・ 院生スピーカー：王 篠卉（関西大学大学院）「中国メディアの中の劉翔」
- ・ ゲストスピーカー：川島 昭夫（京都大学）「狐狩りは、貴族のスポーツか」
- ・ コメンテーター：井上 俊
- ・ 進行：杉本 厚夫（京都教育大学）



～内容報告～

関西大学大学院生の王篠卉さんから「中国メディアの中の劉翔」と題して、中国陸上界のスーパースター劉選手（110mハードル）の北京五輪における棄権をめぐる中国メディアの報道姿勢に関する報告がなされた。中国で発刊されている数社の新聞やインターネットというメディアの情報など、膨大な量のデータを収集されていた。このように集められた貴重なデータをどのような視点から分析し、論文としてまとめていくのかについても議論がなされた。また、多くの方から質問やコメントが寄せられ、研究の意義や方向性に関する示唆を含め、充実した意見交換がなされた。

後半はイギリス史で著名な川島昭夫（京都大学）先生が「狐狩りは貴族のスポーツか」

というテーマで話題提供された。手堅い資料に裏付けられたユーモアあふれる議論が紹介された。歴史的な資料をどのように活用し、解釈を加えていくのかについて示していただいた。その際に若手の研究者に重要なことは、論理構成をいかに作っていくのかであるというご指摘もいただいた。今後のスポーツ社会学の方法論を考える上で、多くの示唆を得ることになった。

コメンテーターの井上俊先生から適切にご教示を頂き、スポーツ社会学のおもしろさを深め、今後様々な研究によって新たな知見を蓄積してほしいとの言葉もいただき、実り多い集まりとなった。

